



## 著者プロフィール

藤井あかり（ふじい・あかり）

1980年 神奈川県生まれ

2008年 「椋」入会 石田郷子に師

2010年 第1回椋年間賞受賞

2015年 第5回北斗賞受賞

俳人協会会員

〈句集『封緘』より転載〉〈2015年6月10日時点〉

## 『封 緘』

（自選15句）

藤井あかり

己が手のふと恐ろしき焚火かな  
柿落葉大切になる前に捨つ  
逆行の人と話せる枯野かな  
打ち明けてしまへば枯菊の軽さ  
我がものになるまで見つめ藪柑子  
言の葉は水漬いてゆく葉冬の鳥  
距離おくといふこと水仙を隔て  
二本の裸木のありわかりあふ  
窓に凭りいつしか春の雨に凭り  
唇も桜も乾きはじめたる  
青梅や傘曇むとは人悼む  
空蟬をもとのところに戻せざる  
脱ぎきたる靴の遣いき裸足かな  
向日葵を切断面と思ひある  
握り潰せる無花果を剥きてをり